

植 調 協 会 だ よ り

◎植調研究所報告

平成13年度水稻用除草剤沖縄試験の実施状況

1. 目 的

本年試験が計画されている一部の水稻用新規除草剤について、適用性試験の実施に先立ち、除草効果および葉害、さらには製剤間の比較検討を行うことによって、薬剤の特性を把握し、第二次適用性試験が効率的に進められるための知見を得ることを目的とする。

2. 耕種概要

(1) 試験場所：沖縄県名護市為又

(2) 試験期間：平成14年2月～3月

(3) 栽培法：稚苗移植栽培

(4) 試験規模

① ジャンボ剤：1区14㎡(2×7m) 2区制

② 粒剤、乳剤、フロアブル剤等：1区0.8㎡(0.8×1m) 2区制

(5) 土壌条件

土性	腐植含量	pH(H ₂ O)	塩基置換容量	減水深
壤土	1.66%	6.5	6.8meq/100g	0.5cm以下/日

(6) 水稻関係

1) 植 代：2月7日

2) 移 植：2月8日(但し、-4処理区については2月12日移植)

① ジャンボ剤：機械移植

② 粒剤、乳剤、フロアブル剤等：1株3本、1区15株手植え

3) 品 種：ひとめぼれ

移植苗：移植前処理 葉齢2.0L(草丈17.1cm地上部乾物率18.2%)

移植後処理 葉齢2.0L(草丈16.8cm地上部乾物率17.6%)

(7) 雑草播種：2月8日

試験圃場での自然発生はホタルイが主であるが、その他ノビエ、ホタルイ種子を土壌表面に播種し、タマガヤツリ、コナギ、一年生広葉雑草種子およびマツバいの混入土を播き込み、ミズガヤツリ、ウリカワの塊茎を区当たり各5個植え付けた。

(8) 薬剤処理

粒剤：均一に手散布

乳剤，フロアブル剤：ピペットを用いて全面に滴下

ジャンボ剤：試験区短辺側に小区画用の薬剤を投入

(9) 水 管 理 移植後より3～4 cm湛水で管理および薬剤処理（ジャンボ剤処理は5 cm程度）を行った。

(10) 施 肥 N-P-K 4.8-4.8-4.8kg/10a

(11) 薬剤処理時の雑草および水稻の生育状態

処理時期	月日	ノビエ	タマガツリ	コナギ	他広葉	マツバイ	ホタルイ	ミズギツリ	ウリカワ	藻類*	水稻
-4, +0	2/8	発生前	発生前	発生前	発生前	発生前	発生前	発生前	発生前	発生前	2.0L
+1	9	"	"	"	"	"	"	"	"	"	2.0L
+3	11	"	"	"	"	"	"	"	"	"	2.0L
+5	13	発生始	"	"	"	"	"	発生始	"	"	2.1L
/E1.0L(+14)	22	～1.0L	"	発生始	発生始	発生始	発生始	舌状葉	発生始	発生始	2.4L
/E1.5L(+17)	25	～1.5L	"	子葉期	"	"	～1.0L	～1.0L	線形葉	"	2.7L
/E2.0L(+20)	28	～2.0L	"	"	"	増殖期	～1.5L	"	"	10%	3.2L
/E2.5L(+22)	3/2	～2.5L	発生始	～1.0L	"	"	～2.0L	～1.5L	"	10%	3.6L
/E3.0L(+24)	4	～3.0L	～1.0L	～1.5L	～1S	"	～2.5L	～2.0L	～1.0L	20%	4.0L

*藻類は主にアオミドロで表示は被度

3. 試験経過および気象概況

本年度はジャンボ剤およびその他の薬剤について圃場試験を実施した。水稻移植は2月上旬に行った。移植後の気温は，ノビエ1Lまでは平年並みで，以後平年に比べやや高く推移し日照も多かった。試験期間中は平年に比べ降雨量は少なく，オーバーフロー等は無かった。

雑草の発生および生育については，タマガヤツリ，ウリカワの発生がやや遅れた他は，順調な生育がみられた。

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都台東区台東1丁目26番6号
電話 東京(03)3832-4188 (代)

編集人 日本植物調節剤研究協会 会長 小林 仁
発行人 植調編集印刷事務所 広田 伸七

東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会
発行所 植調編集印刷事務所
電話 東京(03)3833-1821番(代)
印刷所 新 成 印 刷 (有)

平成14年3月発行 定価420円(送料270円)
植調第35巻第12号 (本体400円, 消費税20円)